

炭焼きの魅力・可能性語る

北区で雲ヶ畑・南丹の生産5団体サミット



京都市や南丹市の団体が取り組みを報告した「炭焼きサミット」
(京都市北区・雲ヶ畑小)

炭焼きに携わる人々が交流する「炭焼きサミット」が27日、京都市北区の雲ヶ畑小で開かれた。雲ヶ畑や南丹市白吉、園部、美山各町で炭焼きに取り組む5団体が、それぞれの活動を報告。森や火と向き合う仕事の魅力や可能性について意見を交わした。

サミットは、南丹市美山町下で約20年前に炭焼きを復活させた澤田利通さん(76)が、炭焼きに取り組む人の輪を広げようとアロ

午前は参加5団体が活動



炭焼き窯を見学する参加者
(京都市北区・雲ヶ畑)



ワークショップで黒炭の鉢や植える木を選ぶ参加者
(京都市北区・雲ヶ畑)

午後には塚本さんが講師を務め、「炭ほんさい」作りに挑戦。炭に穴を空けて作った小さな鉢に、モミジやクリなどの木の芽を植え、室内で楽しめる盆栽に仕立てた。その後は塚本さんの炭焼き窯も見学。中からバイナップルや栗など変わ種の炭が出てくると、驚きの声が上がった。

参加者はそれぞれの窯の形状やサイズ、温度調整の工夫についても情報を交換。「幼い頃にかいだ煙や窯のにおいが忘れられない」「生き物を育てている感覚がある」など、炭焼きならではの魅力も語り合つた。主催した澤田さんは若い人にも炭焼きの良さを伝え、それぞれの地元でつないでいく「もらいたい」と語った。(井上真央)

活動報告や情報交換

る。高齢化が進むが長く続けていきたい」と意気込んだ。